



日耳鼻医会 FAXニュース

平成29年4月7日発行 第249号

◎第42回臨床家フォーラム案内

- ・創立50周年記念式典・祝賀会 7月15日(土)
記念式典・記念講演: 午後4時半～
記念祝賀会 午後6時半～
会場:京王プラザホテル南館3階&5階
記念講演:「先天性難聴児および高齢者の難聴と人工内耳手術～聴覚の獲得の成果と課題～」
加我君孝先生(国立病院機構東京医療センター 名誉臨床研究センター長)

- ・フォーラム記念公開講演 7月16日(日)
午前11時50分～午後1時

会場:日経ホール(千代田区大手町1-3-7日経ビル)

講演:「耳鼻咽喉科と地域医療体制」

釜菴敏先生(日本医師会常任理事)

- ・懇親会:講演会終了後、日経ホール6階

◎東京都耳鼻咽喉科医会学術集会講習会案内

(第42回臨床家フォーラム記念公開講演の前に行います)

日時:7月16日(日)午前9時～午前11時30分

会場:日経ホール(千代田区大手町1-3-7日経ビル)

- *「アレルギー診療に対する安全対策」(共通講習申請)

大久保公裕先生(日本医科大学教授)

- *「慢性感音難聴診療の最前線」(領域講習申請)

小川 郁先生(慶應義塾大学教授)

受講された先生は、(社)日本専門医機構の耳鼻咽喉科領域講習1単位及び専門医共通講習(必須項目)1単位を取得できます。

◎平成28年度第6回全理事会開かれる

3月26日東京の日耳鼻医会事務所で28年度最後の全理事会が開かれた。

庶務報告、日耳鼻医会創立50周年記念式典、第42回臨床家フォーラムの進捗状況報告の後、伊東理事長より第4回医会全般に関するWGの報告があった。全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会(仮称)、全国耳鼻咽喉科医会(仮称)の構成や業務、課題、中間答申について説明の後、

今後のスケジュールが提示された。本年12月までの予定は以下の通り。

- 4月22日 第5回医会全般に関するWG
- 5月17日 学会・医会協議会常任委員会
- 5月18日 全国的な医会組織の構築に向けての説明会
- 9月17日 学会・医会協議会常任委員会
第1回全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会(仮称)
- 11月12日 学会・医会協議会
第2回全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会(仮称)

これらを踏まえて今後の会議日程や解散時期、臨時総会について協議が行われた。

その後、平成29年度の事業計画について継続する事業、会費などについて協議が行われた。また、平成30年には診療報酬の同時改定が予定されているが、改定の度に発行している点数早見表や点数一覧表の発行について協議が行われた。

■風邪で抗菌薬、慎重に厚生労働省が手引き

厚生労働省の小委員会は3月6日、抗菌薬が効かない薬剤耐性菌の拡大を防ぐ対策として、軽い風邪では抗菌薬の使用を控えるとした診療の手引を大筋でまとめた。手引は主に外来診療を行う医師向け。風邪の症状であり、抗菌薬の過剰投与が指摘されている急性気道感染症と急性下痢症について、いずれも軽度の場合は抗菌薬を投与しないことを推奨している。ただ、乳幼児は特殊な配慮が必要として対象外とした。

一方、急性咽喉炎でA群溶血性レンサ球菌が検出された場合や、百日ぜきが疑われる場合は投与を検討する。患者への説明用文書では、風邪や下痢の大部分は抗菌薬が効かないウイルス性の感染症で、適正に使わないと副作用が大きいことを紹介する。

抗菌薬の過剰投与などが続けば耐性菌が広がり、その結果、2050年には世界で年間1千万人が死亡すると推定されている。政府は20年までに抗菌薬の使用量を13年比で3分の2に減らすことを目標にしている。

■ファイザー「エピペン注射液」自主回収 針出ない恐れ

製薬大手ファイザー(東京都)は3月13日、生命にかかわることもある重いアレルギー症状、アナフィラキシーショックになった際に使う注射薬「エピペン注射液0・3ミリグラム」の一部に針が正常に出ないなどの不具合が見つかり、国内で出荷した5974本を自主回収すると発表した。

同社によると、海外で針が出ずに正常に接種できなかった例が2件報告された。国内で同様の報告はないという。対象は、昨年1～3月に出荷した製造番号「PS00019A」で、使用期限が来月末までのもの。代替製品と交換する。問い合わせは、同社の相談窓口(0120-665-766 平日午前9時～午後5時半)へ

■耳の手術で禁止の消毒液使用

市立甲府病院で、耳の手術で使用が禁止されている消毒液「ヒビテン・グルコネート液」を使ったため患者2人の難聴が悪化する医療ミスがあったことが2月21日分かった。病院はミスを認めて2人に謝罪、計850万円の賠償金を支払った。厚生労働省によると、同消毒液に添付されている文書でも「難聴、神経障害を来すことがある」として、耳への使用を「禁忌」と明記している。

同病院の説明では、11年6月、耳鼻咽喉科で鼓膜の穴をふさぐ手術の際、「液が透明で視認しやすい」ことなどから消毒液を「ヒビテン・グルコネート液」に変更。同手術は15年6月に甲斐市の70代男性、16年2月に中央市の50代女性がそれぞれ受け、2人が術後の経過の悪化を訴えた。

病院側は手術の映像やカルテなどを検証。院内の医師らで構成する事故調査委員会が昨年3月、「ヒビテン・グルコネート液」の使用が原因と結論付けた。

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp
当会へのご意見ご要望ご提案をお寄せ下さい